

54. 採卵鶏の頸部皮膚にみられた漏斗部嚢胞(類表皮嚢胞)

誌名	鶏病研究会報
ISSN	0285709X
著者	中村, 菊保
巻/号	48巻3号
掲載ページ	p. 217
発行年月	2012年11月

54. 採卵鶏の頸部皮膚にみられた漏斗部嚢胞（類表皮嚢胞）
 (Infundibular cyst (dermoid cyst) in neck skin of layer chicken)

キーワード：皮膚，採卵鶏，漏斗部嚢胞，表皮嚢胞

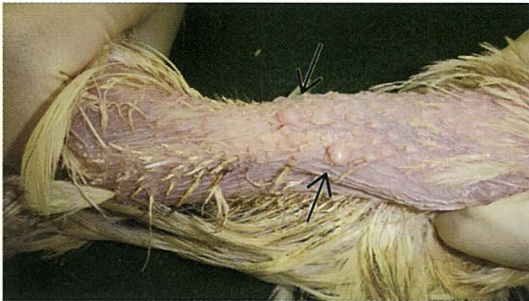


写真1. 頸部の皮膚に小豆大の腫瘍が二個（矢印）みられる。この部位では脱毛し，皮膚が露出している。羽包に一致しているようにもみえる。



写真2. 真皮内に表皮上皮が嚢胞をつくり，内部に大量のケラチンを容れる。ケラチンは同心円状で層状に配列していた。嚢胞周囲には，リンパ球，形質細胞，偽好酸球など細胞浸潤がみられる。HE染色。

動物：採卵鶏，雌，成鶏

発生状況および症状：解剖実習で解剖された鶏40羽のうち3羽に頸部皮膚に腫瘍がみられた。そのうちの1羽である。

肉眼所見：頸部の皮膚において小豆大の腫瘍（写真1）がみられた。周囲との境界は明瞭であった。一見，羽包が腫大したようにも見える。割を入れると内部に黄白色の物質を容れていた。腫瘍部周辺の皮膚では，脱羽していた。他の部位の皮膚ではみられなかった。

組織所見：組織学的には，真皮内に表皮上皮が嚢胞状にみられ，嚢胞内にはケラチンを大量に容れていた（写真2）。ケラチンは同心円状に配列していた。嚢胞内に羽はみられなかった。嚢胞周囲の真皮に軽度のリンパ球，形質細胞，偽好酸球の浸潤巣がみられた。嚢胞は閉塞したものが主体であったが，一部皮膚表面に開口しているものもあった。

解説：表皮嚢胞は，真皮内に表皮上皮細胞が侵入増殖し，嚢胞をつくり，嚢胞内に増生した角質を充満させる病変である。種々の動物でみられるが，鶏の表皮嚢胞

の報告はみあたらない。犬では，前肢，後肢，腹部，背部，胸部，頭部，頸部，陰囊の順に発生頻度が高く，猫では，頸部，頭部，胸部，腹部，前肢，背部，の順でみられる（犬と猫の皮膚腫瘍，Goldshmidt and Shofer 著，学窓社）。哺乳類の皮膚嚢胞には，類表皮嚢胞（dermoid cyst），毛包由来嚢胞，皮脂腺嚢胞，アポクリン腺嚢胞に分けられる類表皮嚢胞は先天的で表皮上皮のほかにも毛や皮脂腺などの付属器を伴う。毛包由来嚢胞は，漏斗部嚢胞，狭部嚢胞があるが，漏斗部嚢胞が最も多い。従来表皮嚢胞と呼ばれていたものは，最近では漏斗部嚢胞（Infundibular cyst）と呼ばれている（動物病理学各論，2版，文永堂出版；Pathology of Domestic Animals, 5th ed.）。今回は鶏であり，羽包の漏斗部由来の嚢胞であると考えられた。原因としては，創傷等により表皮が真皮あるいは皮下組織に陥乳しておくとされている。